

スキル領域とスキル熟達度

(7) アプリケーションスペシャリスト

スキル領域

職種:アプリケーションスペシャリスト

アプリケーションスペシャリストのスキル領域

| | 専門分野 | スキル項目 |
|-----------|-------------|---|
| 職種共通スキル項目 | 全専門分野 | <ul style="list-style-type: none"> ●業務分析 業務要件分析、技術要件分析、インダストリ知識、システム化戦略策定、プラットフォーム要件定義、システム価値の検証、情報化と経営、汎用業務内容、汎用業務最新動向等 ●テクノロジ システムプラットフォーム技術、最新技術動向、最新業務パッケージ動向、コンピュータ科学基礎、コンピュータシステム、システムの開発環境、ネットワーク技術の理解と活用、データベース技術、データベース設計、トランザクション処理とデータベースの同期点の関係、インターネット技術等 ●デザイン 要件定義、インダストリパッケージ開発環境設計、開発環境設計、データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計、インダストリパッケージ設計、モデリング技法の理解と活用等 ●ソフトウェアエンジニアリング 設計手法、開発手法、開発支援ツールの活用、プログラミング技術、プログラミング言語、テスト技法、再利用手法、セキュリティとプライバシー、セキュリティシステムの実装、検査、外部設計、内部設計、オブジェクト指向開発、プログラム設計、検証技法の活用、標準化、システム監査、技術検証手法等 ●コンサルティング技法の活用 コンサルティング技法の選択と活用、分析ツールとモデルの理解と活用 ●知的資産管理(Knowledge Management)活用 知的資産の管理と活用 ●プロジェクトマネジメント プロジェクト統合マネジメント、プロジェクト・スコープ・マネジメント、プロジェクト・タイム・マネジメント、プロジェクト・コスト・マネジメント、プロジェクト品質マネジメント、プロジェクト人的資源マネジメント、プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント、プロジェクト・リスク・マネジメント、プロジェクト調達マネジメント ●リーダーシップ リーダーシップ ●コミュニケーション 2Wayコミュニケーション、情報伝達、情報の整理・分析・検索 ●ネゴシエーション ネゴシエーション |
| | 専門分野固有スキル項目 | <ul style="list-style-type: none"> ●業務システム構築 業務環境、業務内容、業務最新動向、業務アプリケーション設計 ●業務パッケージ適用 業務パッケージ最新動向、業務パッケージ適用設計、業務パッケージ稼働環境選定、業務パッケージ導入、業務パッケージパフォーマンスチューニング、業務パッケージ適用開発手法 |

<注釈>

アプリケーションスペシャリストとしては専門領域ではないスキル及び知識項目であっても、IT人材として広く習得が望ましいと思われるスキル及び知識項目をスキルディクショナリ(試験との対応表)に“○”印で示している。

スキル熟達度・知識項目

職種:アプリケーションスペシャリスト

専門分野:業務システム

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●業務分析</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －業務要件分析 －技術要件分析 －インダストリ知識 －システム化戦略策定 －プラットフォーム要件定義 －システム価値の検証 －情報化と経営 －汎用業務内容 －汎用業務最新動向 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、経営戦略・システム化戦略との整合性を保ち、業界や技術動向の先見の見地に基づき複雑高度な業務要件、技術要件分析を行うことができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、業務要件、技術要件分析を行うことができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、業務要件、技術要件分析を行うことができる。</p> |
| | レベル3 | <p>アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバとして、担当する領域における業務要件、技術要件分析を行うことができる。</p> |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●テクノロジー</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> -システムプラットフォーム技術 -最新技術動向 -最新業務パッケージ動向 -コンピュータ科学基礎 -コンピュータシステム -システムの開発環境 -ネットワーク技術の理解と活用 -データベース技術 -データベース設計 -トランザクション処理とデータベースの同期点の関係 -インターネット技術 -プログラミング言語、マークアップランゲージ -ミドルウェア技術 -リレーショナルデータベース管理システムの基本機能 -最新IT市場動向 -システム管理技術 -プラットフォーム技術 -製品知識(プラットフォーム) -システム管理手法 -データベースマネジメントシステム(DBMS)の選定 -データベースマネジメントシステム(DBMS)の導入 -データベース開発における重要技術 <ul style="list-style-type: none"> -データベースの周辺技術 -データベース関連技術動向 -ネットワークシステムの技術動向 -ネットワーク製品知識 -ネットワーク標準 -ネットワークシステムの実装技術 -サーバ配置手法 -アプリケーション実行方式 -サーバ技術 -負荷分散と可用性 -分散コンピューティング開発環境 -ユーザインタフェース技術 -アプリケーションセキュリティ -セキュリティ技術の理解と活用 -セキュリティ技術動向 -セキュリティシステムの実装、検査 -データモデリング -データベース運用設計 -コンピュータシステムアーキテクチャ及び基盤技術の理解と活用 | レベル7 | |
| | レベル6 | ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、複雑性の高い技術的問題解決を実践し全開発局面をリードすることができる。 |
| | レベル5 | ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、複雑性の高い技術的問題解決を実践し全開発局面を遂行することができる。 |
| | レベル4 | ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、複雑性の高い技術的問題解決を実践するとともに全開発局面を遂行することができる。 |
| | レベル3 | アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバーとして、担当する領域における技術的問題解決を実践して、業務システムの設計、開発、導入作業を実施することができる。 |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●デザイン</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －要件定義 －インダストリパッケージ開発環境設計 －開発環境設計 －データベース －ミドルウェア －分散コンピューティング設計 －インダストリパッケージ設計 －モデリング技法の理解と活用 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、テクニカルチームをリードして、複雑高度な開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、テクニカルチームにテクニカルガイダンスを実施し、複雑高度な開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダとして、開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバとして、担当する領域におけるアプリケーションデザインを実践することができる。</p> |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●ソフトウェアエンジニアリング</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －設計手法 －開発手法 －開発支援ツールの活用 －プログラミング技術 －プログラミング言語 －テスト技法 －再利用手法 －セキュリティとプライバシー －セキュリティシステムの実装 －検査 －外部設計 －内部設計 －オブジェクト指向開発 －プログラム設計 －検証技法の活用 －標準化 －システム監査 －技術検証手法 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関してテクニカルチームをリードし、システム開発を遂行することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関してテクニカルチームにテクニカルガイダンスを実施し、システム開発を遂行することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダとして、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関して経験の浅いメンバに対してアドバイスを与え、システム開発を遂行することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバとして、担当する領域において、ソフトウェアエンジニアリング技術を活用したシステム開発を実践することができる。</p> |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●コンサルティング技法の活用</p> <p>【知識項目】</p> <p>ーコンサルティング技法の選択と活用</p> <p>ー分析ツールとモデルの理解と活用</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、最適なコンサルティング技法を選択適用し、プロセスの定義と実践、成果物の定義と作成を行い、プロジェクトを成功裡に実施することができる。 |
| | レベル5 | ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、最適なコンサルティング技法を選択適用し、プロセスの定義と実践、成果物の定義と作成を行い、プロジェクトを成功裡に実施することができる。 |
| | レベル4 | ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、コンサルティング技法を適用し、プロジェクトを実施することができる。 |
| | レベル3 | アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバーとして、コンサルティング技法を理解し、プロジェクトに参画することができる。 |

ITスキル標準V3_20080411

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>● 知的資産管理(Knowledge Management)活用</p> <p>【知識項目】</p> <p>一 知的資産の管理と活用</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、プロジェクトの準備、開始から完了、及び完了後の全工程において、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を適切に行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、プロジェクトの準備、開始から完了、及び完了後の全工程において、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を適切に行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバーとして、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |

スキル領域とスキル熟達度

APS-10

©2008 経済産業省, 独立行政法人 情報処理推進機構

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●プロジェクトマネジメント</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト統合マネジメント －プロジェクト・スコープ・マネジメント －プロジェクト・タイム・マネジメント －プロジェクト・コスト・マネジメント －プロジェクト品質マネジメント －プロジェクト人的資源マネジメント －プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント －プロジェクト・リスク・マネジメント －プロジェクト調達マネジメント | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、プロジェクトマネジメント職種と協業し、プロジェクト計画策定と実施、変更管理等のプロジェクトマネジメントを遂行することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、プロジェクトマネジメント職種と協業し、プロジェクト計画策定と実施、変更管理等のプロジェクトマネジメントを遂行することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、プロジェクトマネジメント職種と協業し、プロジェクト計画策定と実施、変更管理等のプロジェクトマネジメントを遂行できる。</p> |
| | レベル3 | <p>アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバーとして、担当する領域におけるプロジェクト計画策定と実施、変更管理等の主要なプロジェクトマネジメントのいずれかを行うことができる。</p> |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●リーダーシップ</p> <p>【知識項目】</p> <p>ーリーダーシップ</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、指揮、命令し全開発局面を遂行することができる。 |
| | レベル5 | ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、指揮、命令し全開発局面を遂行することができる。 |
| | レベル4 | ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、指揮、命令しプロジェクトを遂行することができる。 |
| | レベル3 | アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバーとして、業務パッケージ開発プロジェクトの担当する領域に参画することができる。 |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●コミュニケーション</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ー2Way コミュニケーション ー情報伝達 ー情報の整理・分析・検索 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、ユーザの業務責任者と、業務システムに関する会話ができる。また、テクニカルチームのメンバとの適切な 2Way コミュニケーション、情報伝達、情報の処理を行うことができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、ユーザの業務責任者と、業務システムに関する会話ができる。また、テクニカルチームのメンバとの適切な 2Way コミュニケーション、情報伝達、情報の処理を行うことができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、プロジェクトメンバとのチームコミュニケーションを図りプロジェクトを遂行することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバとして、プロジェクトチームの状況を的確に理解し、適切なチームコミュニケーションを図ることができる。</p> |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●ネゴシエーション</p> <p>【知識項目】</p> <p>ーネゴシエーション</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | ピーク時の要員数50人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、ユーザの業務責任者と、ゴールを設定し、論理的根拠に基づき技術的課題に関する合意を形成できる。 |
| | レベル5 | ピーク時の要員数10人以上50人未満のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、ユーザの業務責任者と、ゴールを設定し、論理的根拠に基づき技術的課題に関する合意を形成できる。 |
| | レベル4 | ピーク時の要員数3人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、プロジェクトチームメンバと技術的課題に関する合意を形成できる。 |
| | レベル3 | アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバとして、プロジェクトチームの状況を的確に理解し、ネゴシエーションを通じて、プロジェクトに必要な情報やデータを獲得することができる。 |

専門分野:
業務システム

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【専門分野固有スキル項目】</p> <p>●業務システム構築</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ー業務環境 ー業務内容 ー業務最新動向 ー業務アプリケーション設計 | レベル7 | |
| | レベル6 | ピーク時の要員数50人以上の汎用業務開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、システム化計画立案から導入、移行に至る全開発局面を成功裡に遂行することができる。 |
| | レベル5 | ピーク時の要員数10人以上50人未満の汎用業務開発プロジェクトにて、開発チーム責任者として、システム化計画立案から導入、移行に至る全開発局面を、成功裡に遂行することができる。 |
| | レベル4 | ピーク時の要員数3人以上の汎用業務開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、プロジェクトを遂行することができる。 |
| | レベル3 | 汎用業務開発プロジェクトにて、開発チームメンバーとして担当領域の実施責任を持ち、設計、開発、導入の一連の作業を実施することができる。 |

スキル熟達度・知識項目

職種:アプリケーションスペシャリスト

専門分野:業務パッケージ

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●業務分析</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －業務要件分析 －技術要件分析 －インダストリ知識 －システム化戦略策定 －プラットフォーム要件定義 －システム価値の検証 －情報化と経営 －汎用業務内容 －汎用業務最新動向 －フィット&ギャップ技術 －業務パッケージ固有知識 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、経営戦略・システム化戦略との整合性を保ち、業界や技術動向の先見の見地に基づき、複雑高度な業務要件、技術要件分析を業務パッケージ固有の知識を用いて行うことができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務要件、技術要件分析を業務パッケージ固有の知識を用いて行うことができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、業務要件、技術要件分析を業務パッケージ固有の知識を用いて行うことができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、担当する領域における業務要件、技術要件分析を業務パッケージ固有の知識を用いて行うことができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|-------------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●テクノロジー</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －システムプラットフォーム技術 －最新技術動向 －最新業務パッケージ動向 －コンピュータ科学基礎 －コンピュータシステム －システムの開発環境 －ネットワーク技術の理解と活用 －データベース技術 －データベース設計 －トランザクション処理とデータベースの同期点の関係 －インターネット技術 －プログラミング言語、マークアップランゲージ －ミドルウェア技術 －リレーショナルデータベース管理システムの基本機能 －最新IT市場動向 －システム管理技術 －プラットフォーム技術 －製品知識(プラットフォーム) －システム管理手法 －データベースマネジメントシステム(DBMS)の選定 －データベースマネジメントシステム(DBMS)の導入 －データベース開発における重要技術 <ul style="list-style-type: none"> －データベースの周辺技術 －データベース関連技術動向 －ネットワークシステムの技術動向 －ネットワーク製品知識 －ネットワーク標準 －ネットワークシステムの実装技術 －サーバ配置手法 －アプリケーション実行方式 －サーバ技術 －負荷分散と可用性 －分散コンピューティング開発環境 －ユーザインタフェース技術 －アプリケーションセキュリティ －セキュリティ技術の理解と活用 －セキュリティ技術動向 －セキュリティシステムの実装、検査 －データモデリング －データベース運用設計 －コンピュータシステムアーキテクチャ及び基盤技術の理解と活用 －業務パッケージのシステムアーキテクチャ及び基盤技術の理解と活用 －業務パッケージデータベース構造 | <p>レベル7</p> | |
| | <p>レベル6</p> | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージ及び周辺システム全領域における複雑性の高い技術的問題解決を実践し、全開発局面をリードすることができる。</p> |
| | <p>レベル5</p> | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージ及び周辺システム全領域における複雑性の高い技術的問題解決を実践し、全開発局面を遂行することができる。</p> |
| | <p>レベル4</p> | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、業務パッケージ及び周辺システム全領域における複雑性の高い技術的問題解決を実践するとともに、全開発局面を遂行することができる。</p> |
| | <p>レベル3</p> | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、担当する領域における技術的問題解決を実践して、業務システムの設計、開発、導入作業を実施することができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●デザイン</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> -要件定義 -インダストリパッケージ開発環境設計 -開発環境設計 -データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 -インダストリパッケージ設計 -モデリング技法の理解と活用 -業務パッケージシステム機能 -業務パッケージ制約条件 -業務パッケージデータベース構造 -フィット&ギャップ技術 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージを活用するためにテクニカルチームをリードして、複雑高度な開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージを活用するためにテクニカルチームにテクニカルガイダンスを実施し、複雑高度な開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、業務パッケージを活用するために開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、担当する領域におけるアプリケーションデザインを実践することができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●ソフトウェアエンジニアリング</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －設計手法 －開発手法 －開発支援ツールの活用 －プログラミング技術 －プログラミング言語 －テスト技法 －再利用手法 －セキュリティとプライバシー －セキュリティシステムの実装、検査 －外部設計 －内部設計 －オブジェクト指向開発 －プログラム設計 －検証技法の活用 －標準化 －システム監査 －技術検証手法 －業務パッケージ固有プログラミング言語及びテスト技法 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関してテクニカルチームをリードし、開発を遂行することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関してテクニカルチームにテクニカルガイダンスを実施し、開発を遂行することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関して経験の浅いメンバーに対してアドバイスを与え、開発を遂行することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、担当する領域において、業務パッケージを活用する適用業務開発に関するソフトウェアエンジニアリング技術を活用した開発を実践することができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●コンサルティング技法の活用</p> <p>【知識項目】</p> <p>ーコンサルティング技法の選択と活用 ー分析ツールとモデルの理解と活用</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージの特長を活かせる最適なコンサルティング技法を選択適用し、プロセスの定義と実践、成果物の定義と作成を行い、プロジェクトを成功裡に実施することができる。状況に応じ、プロジェクトおよび運用後の成功の為に、Change Management の提言を行う。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージの特長を活かせる最適なコンサルティング技法を選択適用し、プロセスの定義と実践、成果物の定義と作成を行い、プロジェクトを成功裡に実施することができる。状況に応じ、プロジェクトおよび運用後の成功の為に、Change Management の提言を行う。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、業務パッケージの特長を活かせるコンサルティング技法を適用し、プロジェクトを実施することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、コンサルティング技法を理解し、プロジェクトに参画することができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>● 知的資産管理(Knowledge Management)活用</p> <p>【知識項目】</p> <p>一 知的資産の管理と活用</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、プロジェクトの準備、開始から完了、及び完了後の全工程において、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を適切に行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、プロジェクトの準備、開始から完了、及び完了後の全工程において、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を適切に行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|---|--------|---|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●プロジェクトマネジメント</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －プロジェクト統合マネジメント －プロジェクト・スコープ・マネジメント －プロジェクト・タイム・マネジメント －プロジェクト・コスト・マネジメント －プロジェクト品質マネジメント －プロジェクト人的資源マネジメント －プロジェクト・コミュニケーション・マネジメント －プロジェクト・リスク・マネジメント －プロジェクト調達マネジメント | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、プロジェクトマネジメント職種と協業し、業務パッケージに適したプロジェクト計画策定と実施、変更管理等の主要なプロジェクトマネジメントを遂行することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、プロジェクトマネジメント職種と協業し、業務パッケージに適したプロジェクト計画策定と実施、変更管理等の主要なプロジェクトマネジメントを遂行することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、プロジェクトマネジメント職種と協業し、業務パッケージに適したプロジェクト計画策定と実施、変更管理等の主要なプロジェクトマネジメントを遂行することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバーとして、担当する領域における業務パッケージを活用する適用業務部分の開発に関するプロジェクト計画策定と実施、変更管理等の主要なプロジェクトマネジメントのいずれかを行うことができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーダーシップ <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ーリーダーシップ | レベル7 | |
| | レベル6 | ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、指揮、命令し全開発局面を遂行することができる。 |
| | レベル5 | ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、指揮、命令し全開発局面を遂行することができる。 |
| | レベル4 | ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、指揮、命令しプロジェクトを遂行することができる。 |
| | レベル3 | 業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバとして、業務パッケージ開発プロジェクトの担当する領域に参画することができる。 |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●コミュニケーション</p> <p>【知識項目】</p> <p>－2Way コミュニケーション</p> <p>－情報伝達</p> <p>－情報の整理・分析・検索</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、ユーザの責任者と業務システムに関する会話ができる。また、テクニカルチームのメンバとの適切な 2Way コミュニケーション、情報伝達、情報の処理を行うことができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、ユーザの責任者と業務システムに関する会話ができる。又、テクニカルチームのメンバとの適切な 2Way コミュニケーション、情報伝達、情報の処理を行うことができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、プロジェクトメンバとのチームコミュニケーションを図りプロジェクトを遂行することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバとして、プロジェクトチームの状況を的確に理解し、適切なチームコミュニケーションを図ることができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|--|
| <p>【職種共通スキル項目】</p> <p>●ネゴシエーション</p> <p>【知識項目】</p> <p>ーネゴシエーション</p> | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、ユーザの業務責任者と、ゴールを設定し、論理的根拠に基づき技術的課題に関する合意を形成できる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、ユーザの業務責任者と、ゴールを設定し、論理的根拠に基づき技術的課題に関する合意を形成できる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、プロジェクトチームメンバと技術的課題に関する合意を形成できる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトの適用チームメンバとして、プロジェクトチームの状況を的確に理解し、ネゴシエーションを通じて、プロジェクトで必要な情報やデータを獲得することができる。</p> |

専門分野:
業務パッケージ

アプリケーションスペシャリストのスキル熟達度・知識項目

| スキル項目と知識項目 | スキル熟達度 | |
|--|--------|---|
| <p>【専門分野固有スキル項目】</p> <p>●業務パッケージ適用</p> <p>【知識項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> －業務パッケージ最新動向 －業務パッケージ適用設計 －業務パッケージ稼働環境選定 －業務パッケージ導入 －業務パッケージパフォーマンスチューニング －業務パッケージ適用開発手法 | レベル7 | |
| | レベル6 | <p>ピーク時の要員数35人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、業務パッケージ将来動向および、システム化戦略に沿って示唆するとともに、システム化計画立案から導入、移行に至る全局面について、業務パッケージ固有技術を活用してその機能と性能を活かし、適用を成功裡に遂行することができる。</p> |
| | レベル5 | <p>ピーク時の要員数10人以上35人未満の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チーム責任者として、システム化戦略に沿ったシステム化計画立案から導入、移行に至る全局面について、業務パッケージ固有技術を活用してその機能と性能を活かし、適用を成功裡に遂行することができる。</p> |
| | レベル4 | <p>ピーク時の要員数3人以上の業務パッケージ適用プロジェクトにおいて、適用チームリーダーとして、業務パッケージ固有技術を活用し、担当する適用領域の成果物の品質、価値を高めるとともに、プロジェクトを遂行することができる。</p> |
| | レベル3 | <p>業務パッケージ適用プロジェクトにて、適用チームメンバーとして担当する適用領域の実施責任を持ち、業務パッケージ固有技術を活用し、設計、開発、導入の一連の作業を実施することができる。</p> |